

ばんだねニュース

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL



VOL. 62

2025年
11月11日発行

海を越えた患者受け入れ ～フィリピン大使館からの要請～

当院はフィリピン大使館の要請を受け、重症患者を受け入れました。
多職種が協力して患者さんをご家族を支えた経験を、関わったスタッフの声とともにお伝えします。

脳神経外科 教授 加藤 庸子

今回フィリピン大使館からの突然の要請で、32才の重症くも膜下出血の患者をこの4月26日に受け入れました。空飛ぶ救急ジェットでマニラから中部国際空港につきました。右半身麻痺・言語障害を伴い全面介助の状況でした。破れた脳動脈瘤の補修、付随する脳に水のたまる水頭症の治療のかたわらリハビリテーションに積極的に介入しました。2ヶ月半の家族も含めた懸命の加療で7月9日にシンガポールでのリハビリテーション強化含め退院の運びとなりました。右麻痺の改善と同時に言語も「ハロー」と語ってくれるまでになりました。言語・生活風習の壁などICU、病棟ナース、事務方と乗り越えました。この先ばんだね病院でも海外からの患者さん受け入れの機会もふえると思います。病院あげて患者さんの救命に当たっていきたいと思います。

リハビリテーション科 講師 松浦 広昂

この度は日本語が通じない意識障害がある患者さんのリハビリテーション治療を担当させていただきました。意識障害の方は自主トレはもちろんできず、リハビリテーション中にもできることが限られ、活動量が少なくなってしまうがちです。また、言語的にもそうですが、我々医療職が促すより家族が促した方がより本人の協力を得られ能力を引き出せるというのを改めて実感しました。リハビリテーション科として、回復を支える医療に携われたことに誇りと喜びを感じております。

ICU 看護長 前田 和志

ICUではフィリピンからの緊急搬送患者の受け入れにおいて、空港から病院への搬送から始まり、患者の治療・看護、さらにはご家族への支援も含めた対応を行いました。言語の壁という課題に直面しながらも、「どんな状況でも患者さんの病状を改善したい」という共通の思いのもと、多職種で連携し、チーム医療の素晴らしさを改めて実感する機会となりました。

5階病棟 看護長 岡松 幸代

病棟では、言語や文化の違いに戸惑いながらも、患者さんへの思いを胸に寄り添い続けた20日間は、私たちにとってかけがえのない経験でした。それぞれの職種が“回復”という共通の願いを胸に、看護を通じて気持ちを通わせられたことは、深く心に残っています。異なる文化や言葉の壁の中でも、看護の力が心をつなぎ、患者さんの新たな旅立ちに会えたことに、心から感謝しています。

事務部総務課 課長 新川 翔太

今回、フィリピンからの緊急搬送という大きなミッションの中で、空港－病院間の搬送の段取りや入院中の支援等、円滑な受け入れ体制の構築に携わりました。約2ヵ月半もの間、多くの関係者と連絡を密にして、患者さんご家族が安心して治療に専念できるよう、事務方としてできることを尽くしました。異国からの受け入れは課題も多いですが、職員一丸となって患者さんの救命・回復に向き合えたことを誇りに思います。



入院中の廃用症候群に注意

入院すると「まずは安静に」と言われることがあります。動かない期間が続くと、筋力や体力、さらには気力まで落ちてしまいます。これを、**廃用症候群**と呼びます。何が起きるのか具体的に見てみましょう。



筋力の低下

「寝たきりは筋力の“急落”を招きます」

入院中ベッドの上で1週間過ごすと、健康な方でも筋力が20%程度減ります。これは、宇宙飛行士が無重力環境で受ける影響と同様だと考えられています。



関節の動きが悪くなる

「関節は、動かさないと“固まる”」

動かさないことにより、関節の痛みや骨粗鬆症が進行したり、関節周りの皮膚や筋肉、靭帯などの組織が変性し、関節の動きが制限されていきます。

心肺機能が落ちる

「動かない生活は心肺の機能を鈍らせます」

入院中に動かない日々が続くと、心臓の血液を送り出す力は弱まり、肺の酸素を取り込む力は落ちてしまいます。すると、以下のような変化が起こります。

- 立ち上がった時に、血圧が保ちににくくなる
- 少し動くだけで、息切れがする
- めまいが起きやすくなる



認知症や精神的な障害が進行する

「刺激不足は脳と心の“急速な衰え”を招きます」

活動低下により運動・感覚刺激が減り、全身循環も低下して脳血流が減少します。その結果、“使わない機能は衰える”原則のもと、神経回路や細胞が減少し、認知機能が低下します。

その他

- 便秘や食欲不振になる
- エコノミークラス症候群になりやすい
- 床ずれ、尿路結石、尿路感染が起こる
- 血糖値、コレステロールが上昇する



当リハビリテーション部の取り組み

目標は**自宅退院、復職**とさまざまですが

私たちリハビリテーション部では

- 早期に自立した生活を目指します
- 筋力や関節の動きなどの機能向上を図ります
- 自主トレーニングの推進を進めます

実績

- 患者1名あたりのリハ提供時間
全国平均の**2.5倍**
(1日あたりの時間数：当院 62.0分、全国平均 24.8分)
- 1週間のうち**平均5.5日**、
より必要な患者さんには**365日**の
リハビリを進めています

“ばんだね公式Instagramでも紹介中”



患者さんへのメッセージ

リハビリテーション科 講師 松浦 広昂



いかがでしたでしょうか。思ったより廃用症候群の影響が広く、大きいと思われたのではないのでしょうか。**20歳男性が3週間安静にしたことで起きた身体的衰えは、30年間の加齢による衰えと同程度であった**という研究結果もあります。私たちリハビリテーション部では術後の方のみではなく、幅広い疾患・年齢層の方へリハビリテーションを実施しています。物の飲み込みに困っている方への嚥下機能検査、手足の筋肉が硬い方へのボツリヌス治療も積極的に行っております。廃用症候群は入院中だけでなく、実生活でも起こるのでご注意ください。

院内イベント報告

病棟夏祭り

【日 時】 8月28日(木) 10:00～12:00

【場 所】 5階病棟

輪投げ ヨーヨー 金魚すくい

8月28日(木)介護福祉士の主催により5病棟で夏祭りを開催しました。

病棟の一角を夏祭り風に飾り付けし、輪投げ・金魚すくい・ヨーヨー釣りなど、縁日を模したコーナーを設け患者さんに季節を感じていただきました。

職員も法被姿で会場を盛り上げ、笑顔あふれるひとときになりました。

普段の療養生活の中ではなかなか味わえない夏の行事を、職員とともに楽しんでいただけたことと思います。



夏のばんだね演奏会

【日 時】 8月30日(土) 14:30～15:30

【場 所】 1階会計前エントランス

8月30日(土)にばんだね演奏会を院内で開催しました。今回はピアニストの佐藤奈菜さん、津軽三味線・民謡の加藤訓音さんにご出演いただき、「ソーラン節」や「情熱大陸」など、お馴染みの音楽をお届けしました。当日はたくさんの患者さんやご家族の方々にお越しいただき、音楽を楽しむ穏やかな時間となりました。

次回は12月にクリスマスコンサートを開催予定です。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

セットリスト

- ① (ピアノ始まり→三味線からみ) ～ソーラン節
- ② アイネクライネナハトムジーク ～天国と地獄
- ③ (ピアノソロ)
- ④ (三味線ソロ)

- ⑤ 河内おとこ節
- ⑥ 島唄
- ⑦ 上を向いて歩こう
- ⑧ 情熱大陸
En. 浜辺の歌



ばんだね病院健康セミナー

第78回 開催報告 9月6日(土)

「自分の健康は自分で守る!」 ～隠れた腎臓病と食事のポイント～

腎臓内科 助教 加藤 丈一郎

「腎臓にやさしい食事」

食養部 管理栄養士 馬場 彩映子

今回は「自分の健康は自分で守る! ～隠れた腎臓病と食事のポイント～」と題し、腎臓内科の加藤丈一郎先生が講演、「腎臓にやさしい食事」を管理栄養士の馬場彩映子先生がお話ししました。当日はたくさんの方にご参加いただき、腎臓病予防について学ぶ有意義な時間となりました。



第79回 開催告知 12月6日(土)

第1部 医師による講演 「知っておきたい、すい臓の病気」

消化器外科 教授 加藤 宏之



第2部 体験シリーズ 脳を若く保つために「脳活体操」

看護部 長崎 理香 (認知症看護認定看護師)
小島 弦

【定員】40名

【日時・場所】

2025年12月6日(土) 14:00～15:00

藤田医科大学ばんだね病院 西棟5階 第1会議室
座長:循環器内科 准教授 藤原 雅也

【参加費】 無料

【お申し込み・お問い合わせ】 藤田医科大学ばんだね病院
TEL:052-323-5792

ぜひお気軽にご参加ください

藤田医科大学ばんだね病院

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL

〒454-8509 名古屋市市中川区尾頭橋3丁目6番10号

TEL 052-321-8171 FAX 052-322-4734 発行 広報委員会

土曜日午前も
診療しています。

二次元コードで今すぐアクセス

ばんだね

検索

